長尾よしのぶ

一、生涯スポーツの推進及び環境の整備を！
二、公共のプール施設の有効活用を！
三、学校における実践的な防災教育を！

生涯スポーツの推進及び環境の整備を！

問 子どもから高齢者まで幅広い年代が安心して体力の向上や健康保持・増進、生活習慣病等の予防改善を目的に気軽に参加できる生涯スポーツ推進に向けての行政の考え方は。

また、乳幼児・児童等が地域の遊び場の減少で体を動かす機会や遊ぶ場所（公園）が少なくなっていると感じられるが、スポーツ公園や運動遊び活動場所の現状について伺う。

答 生涯を通じ誰もがいつでも、どこでも気軽にスポーツができるよう多様な機会と条件の環境整備をすることが行政の役割であると考えている。

公共のプール施設の有効活用を！

問 能勢町B&G海洋センターは平成20年4月にプールが休止して、閉鎖状態である。

能勢町内の小中学校にあるプール施設については6月～8月上旬の期間を授業の一環として使用している。それ以降は水を張ったままで活用していない。能勢町は地域の活性化を図るために、生き生きと活動できる場所を整備、推進しなければならないと思うが、維持管理についての現況及び今後のプール利活用の方向性について伺う。

答 B&G海洋センターは大規模改修や運営費等の負担が生じるため、利用や効果等を十分検証するとともに、学校再編に伴う、既存小中学校プールをどうするかをあわせた上で慎重に検討する。

学校における実践的な防災教育を！

問 近年地震、竜巻、大雨をはじめ自然災害が多発している。能勢町もひとごとではない。

東日本大震災など大規模災害の教訓を風化させることなく、子どもたちに確実に伝えることをはじめとした防災教育の推進が求められていると思われるが、自然災害時の実践的な防災教育の取り組みについて伺う。

答 災害発生時を想定した避難訓練を実施している。特に地震、土砂災害の対応については注意喚起や登下校指導中などで行っている。危機マニュアルの作成や防災マニュアル等を実施し、「自分の命は自分で守る」を原則に瞬時に判断できる指導に努めている。

一般質問

大平喜代江

一、協働、連携による地域福祉力について
二、能勢町災害時要援護者避難支援プランについて

協働、連携による地域福祉力について

問 地域福祉計画及び地域福祉活動計画の進ちょく状況を伺う。

答 緊急時、災害時等の支援体制づくりにおいて全世帯に命のカプセルを配布、見守り緊急通報機器の給付、要援護者管理システム導入等の施策を実施。今後、誰もが集える地域住民サロンづくり高齢者等の交通弱者に対する移動支援について重点的に取り組むとともに緊急時、災害時の支援体制づくりについても引き続き取り組んでまいりたい。

問 ボランティアクラブの組織化について伺う。

答 地域福祉の推進には地域の住民の皆様がともに支え合い、助け合う共助の精神に基づく活動が必要不可欠である。地域ボランティア組織の形成イメージは、小学校区単位が受け皿となる組織を形成し、各校区の状況や運営状況等に鑑みながらその後の活動単位を細分化していきたいと考える。

能勢町災害時要援護者避難支援プランについて

問 町の災害対策本部からの情報伝達方法や連絡網について伺う。

答 本町では、ホームページトップに、大阪府土砂災害情報のバナーを設け常に閲覧いただける状態にしており、あわせて広報のせを活用し、防災意識の啓発に毎月努めている。情報の伝達については、広報車により対象住民への伝達と同時にホームページへの掲載やエリアメールを活用した一斉送信など、消防団組織の活用など、あらゆる伝達手段をもって対応すべきと考えている。

問 災害時の初期対応は地域の力によるところが大きい。自主防災組織の立ち上げなどについて伺う。

答 初期対応に関して自主防衛機能としては自治区制度がある。日ごろからコミュニティーをともにする区の存在は、有事の際の共助機能として必要不可欠なものと考えさらなる防災機能の向上の観点からも、自主防災組織は重要であると認識している。